

BBIT ベーシックコース内容

BBIT ベーシックコースは8つのオンラインライブストリーミングクラス、及び2つの実技実習クラス（会場は東京近辺）、合計で10クラスのコース。

- * ベーシックコースでは左右脳や脳部位間のバランスを判定するためのアセスメント法を学ぶ。
- * インターメディエイトコースでは療法のアプリケーションを学ぶ。
- * インターメディエイトコースを履修するにはベーシック修了試験に合格する必要がある。

* クラス進行状況によりクラス内容が変更される場合があります。また感染症などの影響で実技実習クラスは日程や形式等が変更になる可能性があります。

BBIT ベーシックコース受講資格

ベーシックコース受講資格は特に設けておりませんが、神経学（神経の基本的な働き、つながり、脳の部位別の基本的な働き等）、運動生理学（筋肉の名前、働き、反射等）、栄養学、免疫学（ごく基本的な免疫機能等）等の基本的な知識が全く無い場合、理解に時間がかかる場合があります。またアセスメント法を学ぶ上で何らかの形での徒手療法経験がない場合、徒手でのアセスメントやその判断の仕方を学ぶ上で難しい可能性がありますので事前に了承した上で受講申し込みをしてください。

* 小児神経学の基本を学ぶ BBIT 神経学セミナーは、随時オンデマンドで視聴できます。特にこのコースでは、BBIT ベーシックコースでは時間的にカバーしきれない部分である発生学や発育順序などに焦点を当てた小児の神経学の基本を学びますので、ベーシックコースを受講する人には是非受講していただきたいクラスです。事前、もしくは同時進行でも学ぶことが出来ますので、ご希望の人はホームページの BBIT セミナーよりお申し込み下さい。

* 上記の予備知識及び経験が全く無い方で、個人的に関わりを持つお子さんに療法を行いたいという場合は、一般向け「脳の発育バランスセミナー」をお勧め致します。こちらもホームページの BBIT セミナーよりお申し込みいただけます。

BBIT ベーシックコース、クラス内容詳細について

クラス 1：左右脳の機能的なバランスの崩れと神経発達症との関わり

内容；小児神経発達症を機能的な左右脳及び脳部位間の未接続という観点で、その科学的検証例をあげながら説明し、その接続を促し脳の機能の改善を行うことで、様々な症状や困りごとを改善することが可能である事を学ぶ。脳の接続を促すアプローチとしての BBIT とは何か、そしてどのようなアプローチをすることで脳の接続を改善することが出来るのかをまずは大筋（ビッグピクチャー）を学ぶ。

アセスメント法；発育の始まりである原始反射のアセスメント

クラス 2：脳の機能バランスの崩れ1（ADHD等）

内容；小児神経発達症の原因とは何なのか、そして脳の側性化及び機能的な局在を現在わかっている範囲で理解し、左右脳のバランスが崩れることでどのような症状につながるのかを学ぶ。そしてADHD、強迫性障害、チック等と右脳の低下との関連の可能性を学ぶ。

アセスメント法；脳神経及び自律神経アセスメント

クラス 3：脳の機能バランスの崩れ2（ASD）

内容；右脳機能バランスの低下パート2としてASDと右脳の低下との関連研究そしてASDのリスクファクター等を学ぶ。また社会関与システムに関連した愛着スタイルを学ぶ。

アセスメント法；脳神経、効き目、聞き耳アセスメント及び自律神経アセスメント

クラス 4：脳の機能バランスの崩れ3（LD）

内容；左脳機能バランスの低下パート1では左脳機能低下とLDの関係、及びその分類を学ぶ。また視床とその振動、体幹筋と視床の振動との関係を学び、脳の発育を促すためには体幹のバランスが重要であるという事を学ぶ。

アセスメント法；体幹及び固有受容体アセスメント

クラス 5：脳の機能バランスの崩れ4（ディスレクシア）

内容；パート2ではLDの中でもディスレクシア、日本語読みのメカニズムを学ぶ。また筋肉の張力（以下筋トーンと呼ぶ）と筋紡錘の働きを学ぶ。

アセスメント法；腱反射、筋肉テスト、体性感覚アセスメント

クラス 6：実技実習パート1

内容；今までのアセスメント法を実技実習を通して習得する。

会場；東京近辺

クラス7：小脳アセスメント

内容；小脳を機能的に脊髄小脳、前庭小脳、大脳小脳に分類しその解剖学と働きを学ぶ。小脳の働きは小児神経発達症との関係が深いという研究も数多くみられ、よってその働きのバランスをアセスメントし働きを改善させることは大きな意味を持つ事を学ぶ。

アセスメント；小脳のアセスメントを機能局在別に学ぶ

クラス8：実技実習パート2

内容；実習パート1のアセスメント法（復習）及び小脳アセスメント法の実習。

会場：東京近辺

クラス9：人間の社会行動に関わる皮質と大脳基底核と視床が形成するループについて
大脳基底核には人間の社会行動に関わる主に5つのループがある事を学び、それぞれのループの機能と様々な症状との関わりを学ぶ。

内容：大脳基底核は小脳とともに人間の認知機能、社会性、感情コントロール、運動コントロールなどに関わっており、それぞれのループの働きと、よく我々が相談を受ける子供たちが持つ特性との関係を学ぶ事で、より個々に特化した療法の提供につなげる事ができる。

クラス10：栄養学、免疫学、そして愛着スタイル

内容；BBIT では、複合運動療法とともに生活変容にも重点を置いている。その中でも食事変容は、脳のバランスを改善させる上でとても重要であること、及びその方法を学ぶ。また、愛着スタイルが子供の社会性に関連していることを学び、愛着スタイルが不安定な場合に我々ができる事は何かを考える。